

# 埼玉の くらしと 社会保障

## 西部地域社保協活動交流会

### 「困ったときに使える制度」の冊子を全県に!

4月5日(土)に西部地域社保協活動交流会が、午後2時から狭山市民会館で開催されました。参加者は全員で14人(狭山社保協3人、所沢社保協1人、日高市社保協1人、狭山ちやのみ福祉倶楽部2人、かわせみ2人、狭山年金者組合1人、狭山土建1人、県社保協3人)でした。若山さん(県社保協事務局)からの冒頭のあいさつでは、「一昨年の社保協総会の発言から、地域でも交流ができるようにしてほしいという要望によって、昨年から地域社保協活動交流会を行なってきました。西部地域で5地域目になります。みなさんの思っていることを大いに語っていただき社保協の運動の大きな前進にしていきたいと思えます。」

次に、参加者全員から自己紹介を行いました。

ミニ社会保障学習会では、「地域から社会保障の前進を！」テーマに県社保協の段事務局長が20分ほど行いました。

続いて、地域社保協、団体の取り組みの交流に入りました。狭山市社保協からは今年、5月25日に総会を行ないません。昨年の総会は、国保税が2倍になったことで「国保」をテーマに学習会を行いました。県の圧力で一般会計からの持ち出しができなくなった。誰をたすけるのかという思いです。「補聴器の助成を求める会」をつくって、高齢者支援課と2回懇談して、意見書もだしたが否決されました。今の市長になってからは、社会保障について手厚くなっていない。給食費の無償化については5000筆の署名を集めて、教育長に持っていったら受けとってもらえず、給食センターに持っていかけてひどい扱いを受けました。毎年秋に学習会を行っています。補聴器助成では、越生町へバスツアーを5年ぶりにおこない約30人で訪問しました。越生町の「聞こえの実態調査で住民の状況を把握して補助金創設」を学ぶことができました。給食費の無償化に向けて給食センターの視察も行ないました。2016年から行政が教えてくれない制度などを掲載した「困ったときに使える制度」の冊子をつくっています。生活保護の計算表、生活相談をするときに活用をしている。狭山地区労と一緒に、新潟のお米を福祉事務所や生活困窮をしているところに配布しました。

所沢社保協からは、民主団体が結集して市との懇談はキャラバンのみで、あとはバラバラに懇談を行っています。以前のように結集できるようにしていきたい。去年から、新事務局長になり、事前学習会を行い、特に学童保育問題を中心に市と懇談をしました。国保税の統一による大幅な値

2025年5月1日発行 第349号

(毎月1回発行)

発行 埼玉県社会保障推進協議会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階

TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483

ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

上げ、20万円引き上げられる世帯もあるので、市長懇談を要請したが市長が会わない方針で実現できなかった。

かわせみ(障害者施設)からは、狭山入間地域、飯能、日高、越生、毛呂山、坂戸、鶴ヶ島地域すべてに参加して、それぞれの地域で障害者がどのような状況におかれているか、キャラバンを活用して市に要望をしています。障害者が参加をして生の声をとっています。障害者の家族の悩み、職員の悩みを行政に伝え改善を求めています。



マイナ保険証になって、重度の障害者は顔認証ができないが、今の保険証なら先生が来てくれたりしていた。実態に合わせて対応を行政に求めています。3月には、障害者支援ネットワークとして、名古屋から原告の方をお呼びして、優生保護法の学習会をおこないました。耳が聞こえないだけで、「子どもをつくるな」という怒りの手話を見たのは初めてでした。自分たちの人生なのに、他人に指図される。全面勝訴になりましたが、優生保護法のあった時代だけではなく、当日のアンケートからは「今でもそういう実態がある」という訴えもありました。今からはじまりとして、被害にあった方々をどう救済をしていくか。誰もが自分の人生を選択できる社会にしていきたい。

狭山ちやのみ福祉倶楽部からは、訪問介護の問題について、全国的に社会的ケアを良くする会ができています。介護事業者をどうするのかという前に、社会的ケアのために介護保険をつくったのが、介護の社会化の理念。これを取り戻すことが必要。訪問介護事業者が赤字で成り立たない状況で、訪問介護報酬を下げたので事業ができなくなった。地域で暮らせるように、田舎にいる両親がちゃんと介護が受けられるようにしていかないと現役世代もたいへんで孫が面倒を見る状況もある。訪問介護事業所がなくなってきている中で介護崩壊がはじまっているので、それを立て直すことが必要です。

地震などの災害時の防災対策についても交流も行いました。鶴ヶ島市では、障害者の災害についてのテーマで一年間かけて話し合うことになっています。医療的ケアで呼吸

器をつけている方がブラックアウトになったときに困るので、電力が補給できることを災害マップに載せていこうという話もあります。高齢、障害、保育という社会福祉経営全国会議をつくった。厚労省と窓口をつくったので、高齢者の団体が少ないのでぜひ入ってほしい。結成して5年で活発に活動をしています。

最後に段事務局長のまとめでは、みなさんからの活発な発言があり、思い切って地域社保協活動交流会をやってよかったです。また、狭山市社保協の貴重な「困ったときに使える制度」の冊子も披露をいただきありがとうございました。全県に広めていきたいと思えます。そして、今日の活動交流会を今後の社保協の活動に生かしていきたいと思えます。今日は、長時間に渡っての積極的な討議ありがとうございました。(埼玉県社保協 事務局長 段 和志)

**第6回目は、西南部地域社保協になります。日時は、8月30日(土)を予定しています。西南部地域社保協・加盟団体のみなさん誘い合っでの参加をお願いします。**

## 『くらしの学校』体験会 ～認知症ケアを学ぶ～

医療生協さいたま



医療生協さいたまでは、「権利としての社会保障制度(健康、医療・介護、くらしに係る制度)と、そのもとになる憲法を学ぶくらしに役立てる」ことを目的に、『くらしの学校』を開催しています。

4月25日には、くらしの学校を全県に広げるための体験会を企画し、元十文字学園女子大学教授の安岡芙美子さんを講師に、「認知症ケアを学ぶ～人生100年時代と認知症」と題した学習会を行いました。

安岡さんは、ご自身も社会福祉士として介護の現場でお仕事をされ、認知症のお母さまを9年間介護し看取りをされた経験をお持ちです。進展する高齢者の実像として2024年には高齢者人口が3,625万人に達し、認知症の高齢者は443万人、軽度認知障害のかたも558万人いることが紹介されました。だれでも身近に認知症のかたがいて、対応を考えるにあたって、まずは認知症についてしっかりと学び理解することが呼びかけられました。

認知症は、よく言われるように記憶力が低下し、なにもかも忘れてわからなくなる、周りが困るような事ばかり行うということではありません、一番困っているのは本人であることをしっかりと理解することが呼びかけられました。

最後に、認知症を予防するためにも、社会参加が重要であることが強調されました。

参加者からは「脳の仕組みや認知機能について学ぶことができた」「地域社会でのつながり、ささえあいを進めていく必要を感じた」などの感想が寄せられました。

体験会には、組合員と職員あわせて21名が参加し、くらしの学校を中心に、さまざまなつながりづくりの場を広げていこうと確認しあいました。

(医療生協さいたま・埼玉民医連 高橋 卓哉)

## 「平和、憲法、暮らしを守る」3つの目標を 2025年埼玉革新懇総会 地域から前進を



4月19日(土)、浦和コミセンにおいて、埼玉革新懇2025年度総会が行われました。地域革新懇、加盟団体から35名の参加がありました。冒頭に丹生代表世話人から、戦後80年の思いとあわせて、ご本人の生い立ちにもふれ戦争によって苦勞をしたこと、恩師をはじめたくさんのお会いがあり、頑張ってこられたこと、中でも、戦後80年の今、憲法があつてこそ平和を守られてきたと開会のあいさつがありました。

来賓の城下県議からは、水道料金の引き上げ反対の署名が短期間に3万筆に迫る勢いで集まったことなどにふれ、今の自民党中心の県議会でもインボイス廃止の意見書を国に上げることなど、県民の世論によって政治を変えることが広がっている。夏の参議院選挙は、何としても伊藤岳さんの議席を守りたいと挨拶がありました。

そして、贄田事務局長から、経過報告と方針提案、決算報告、予算案の提案を受けて、討論に入りました。全体で10人から発言がありました。草加革新懇からは、平和学習会の成功、とりわけ被団協の田中照己さんの講演会は超満員で大成功させ、草加市をから高校生の平和大使12名派遣することが決まった。革新懇を軸に地域で平和の問題、学校給食費の値上げを中止にさせるなど、共同の運動がひろがってきています。

さいたま市革新懇からは、埼玉市民ネットワークをつくり、大宮駅をはじめ、大型の再開発を見直し、市民生活優先の市政に変えていく運動を強めている。5月25日の市長選にむけて候補者を模索している状況です。

医療生協さいたまからは、高額療養費、自己負担額の引き上げ反対の運動を行なってきた。4月に100人の職員が入りました。政治に感心を持ってもらうために、国会議員

要請行動などの取り組みをしています。10年前から、県は800床、医師500人を増やすとして、美園に順天堂大病院を建設しようとしたが物価高騰で断念しました。その裏で秩父医療圏では医師不足が深刻です。2つの病院で急性期医療を回している状況ですが、県は医療スタッフを増やす計画はなくその姿勢もみられません。

埼玉土建からは新入書記局員研修で、自民党の家父長制が残る綱領を解明し、「県議会で児童虐待条例」が出された背景なども説明しています。また、他党の綱領を比較しながら政治学習を強めています。また、インボイスで大打撃を受けている建設職人の仕事と暮らしを守るため、地域からインボイス廃止の意見書を上げるたたかい、公共工事の設計労務単価が13年連続して引き上げているが、実質賃金との乖離は相当あり、賃金・単価を引き上げるたたかいなどの発言がありました。

最後に、藤田（埼労連議長）代表世話人が、ケア労働者の低すぎる賃金にふれ、維新に飲み込まされた、高校授業料の無償化と引き換えに医療費4兆円の引き下げよりもケア労働者の処遇改善が急務、そのためにも夏の参議院選挙を頑張ろうと閉会の挨拶がされました。

## 第53回障埼連総会

# 楽しく、元気がでるような活動を みんなでやっていきたい



4月29日（火）埼玉県障害者交流センターにおいて、第53回障埼連総会が行われました。開会のあいさつでは、國松副会長から、1972年に県知事選候補者へ、実行委員会をつくり障害者政策を聞く集いを開催した。結成の準備段階から県庁にスロープをつかって、東京への越境入学をさせないで埼玉に養護学校をつかってなど要望書を出す中で、10月23日に障埼連が結成されました。当時の県の障害福祉課は出世頭でした。新しい要求を仕事としてやる夢があった。措置制度から契約制度に、今の福祉は様々に広がりを見せている中、企業が進出する状況。それが壁になっている。大きな力を結集して、今日の総会で議案をしっかりと討議していただきたい。

はじめに、5人の来賓のあいさつがあり、埼玉県障害者福祉推進課の関根さんからは、第7期障害者支援計画の中間年、さらなる障害者施策に力を入れ、具体的には改正差

別解消法の啓発に強めていきます。

日本共産党の伊藤県議からは、本年度予算の中に、精神障害者保健福祉手帳2級の患者の医療費助成制度がみなさんの運動の成果で拡充ができました。来年の1月からスタート、通院だけという部分については改善を求めています。また、国の障害者への予算が7年間で7億円削られています。この予算があれば医療費助成制度が拡充でき、そもそも国にこの制度がないことが問題。国は、軍事費だけが9.5%増、社会保障費はわずか1.2%増、食料安定供給費はマイナス0.2%。みなさんの声を聞いて政策をつくっていききたい。障害者のみなさんが、分け隔てなく暮らせる社会をつくっていく決意です。一緒にがんばりましょう。

全障研埼玉支部の細野さんからは、戦後80年、振り返ってみると障害のある方たちが戦争に巻き込まれる危機を感じます。障害のある方の人権裁判、18歳の壁と言われています。社会で過ごせる場所づくり、障埼連と一緒に頑張っていきます。

きょうされん埼玉支部の古澤さんからは、昨年をふり返って、3つの大きな問題があった。優生保護法による国の誤りを認めた最高裁の判決、いのちのとりで裁判のさいたま地裁、東京高裁での勝利、そして、日本被団協の「ノーベル平和賞」の受賞。障害者協議会総会で田中照巳さんと呼んで講演会を開催する。自立支援法が成立して15年、様々な問題が起きている。福祉の市場化によって不正請求をおこなったグループホーム恵の問題。成果主義により、小さな事業所の経営が苦しい実態、こういう中で、職員のなり手がいない、職員の高齢化問題、基本合意は何だったのかと思う。そして、軍事費の増大で社会保障が削られている。平和だからこそ障害者が安心して暮らせる。きょうされんは2030年で50年、運営してきた人が高齢になってきている、この先50年を見通した活動をしていきたい。

埼玉県社保協からは、自治体要請キャラバンが7月22日から始まるので、障埼連のみなさんの大勢の参加とご協力をお願いしたい。軍事費では社会保障を守れない。一緒にがんばりましょう。

次に、若山事務局長から、24年度運動の総括、埼玉障害者9条の会の学習会「武力で命と平和は守れない」を行なったことを紹介、また、9条の碑をつくることも計画している。夏の県交渉では、県側の回答が、切実な要望に対し、「国の問題です。県の財政はありません。」の繰り返しで、消化不良の懇談になったので次年度の課題としたい。優生保護法問題の全面解決に向けての取り組みでは、埼玉県には原告がないので、3月6日の「優生保護法訴訟の歴史的勝利と全面解決に向けた課題」をテーマに愛知の原告を招いての講演会を開催しました。140人の参加、オンラインでも40カ所からの参加で成功したこと。そして、6/26の天海訴訟の最高裁での全面勝利に向けて、団体署名の協力の訴え、地域運動交流会の久しぶりの開催で地域の様々な問題、地域で障害者の権利向上、医療のこと、年金のこといっぱい出てきたことで、知識をひろげ、つながりをもつことの大切さを感じた。また、電動車椅子の支給に関わり不当な扱いをする、熊谷市、所沢市の問題を共通認識にしていく課題。

障害者まつりについては、事務局にも新しいメンバーが入り企画の段階から議論を積み重ねて、予想を超える3000人規模で成功させた経験。多くの課題を仲間とともに学習し、行動し、懇談し、交渉し、少しずつ前進し、みんなの運動への確信をつくってきた1年間の活動総括でした。

発言は10人の方からありました。最初の発言は、学校分野での教員の状況でした。発言したお二人とも、学校現場はたいへん。教育DX、TXとなんでもデジタル化しようとするが、年度末のデータの大移動が新たな負担となり、多忙化の原因。外での活動をしているからこそ、学校現場で仲間や同僚と話ができる。もう一人の方は、こども全員にタブレットを持たせているがそのメンテナンスだけでも大変。また、学校の予算が少なく、人が増やせないなど、生徒や家族への負担となっていること。

第一の柱の作業所からの発言は、45年前の地方分権化の弊害で格差が生まれることが予想されるので、その阻止するために、地域組織づくりを急ぎ、「市民の会」を立ち上げ、父母と一緒に、行政と向き合って要求を実現させてきた経験。また、養護学校の卒業後の居場所づくり、作業所づくり、進路保障をしてきた。今は、いろんな運動が生活保障に根を下ろして活動をしている。政治の右傾化で要望しても通らなくなってきた。障埼連の地域交流会はいろんな人の願いをくみ、みんなで交流していくために大切。

日高市のかわせみ（障害者施設）の仲間からは、自治会選挙の取り組みの報告があり、「明日は投票日でみんなドキドキしている。候補者のポスターづくり、立ち合い演説会、政見放送など仲間と選挙活動を頑張っている。役員が一番人気は給与委員で、物価高騰の中、工賃の引き上げは願い。最後に、仲間が安心して暮らせるように年金のアップ、そして仲間と買い物、おいしいものを食べにいきたい。」と切実な要求も出されました。

第2の柱の暮らしの場づくり、県への運動、地域の運動の報告では、県の施策推進協議会の委員を2期4年間、家族としての委員は初めての中で、協議会で奮闘した方からは、「多くの方からの要望が上がり、入所施設への定員の削減をさせないと言われた。」など大奮闘してきた報告がありました。

若山事務局長のまとめでは、「今日の発言は、一人ひとりが障埼連を支えていることを改めて感じました。その力を集めながら一歩ずつすすめる。まず、場をしっかりと提供する、呼びかけもしっかりする。その場に仲間をしっかりと集めていく。みんなで一つひとつ、つくっていききたい。」

新たなに「暮らしの場を考える草加の会」が加入することが決まりました。精神障害者の2級について、医療費の助成は県段階では通ったが、各市町村が補助しない限り、実施されないの、キャラバンの中で自治体に予算化することを要望してほしい。

最後に、新会長の足立さんから、学びながら、一生懸命努めていく。障埼連の接点は、二人の障害のある子を抱えて、どういう風に生きていくのかなと途方に暮れていたころ、学校の先生と家族で遊ぶ会をつくり、「障害者まつり」に参加し、その時に、こどもと一緒に楽しい人生をおくりたいと思えるようになりました。こどもが成長し、みぬま

福祉会に入り、そこで福祉会の理念に出会い「障害が重くても軽くてもどんな人も生きる権利があるし、意味があるし、それだけで尊重されるとしみじみと感じて、生きていくのが楽になって、みんなを信じて一緒にがんばっていきたくて心から思えるようになりました。その中で、自立支援法の訴訟の活動にも出会い、仲間にも恵まれて幸せだと思えるようになりました。障埼連の運動は、みんながつながって、信頼し合えて、その積み重ねで社会を変えていけるとはっきりしたらみんなが元気になれると思う。今日のみんなが頑張っている話を聞いて、いろんな人に伝えて、楽しく、元気がでるような活動をみんなでやっていきたい。」

## 第32回埼玉社会保障学校

日時 9月7日(日)13時~16時30分

会場 さいたま共済会館6F

参加費/会場3000円・ZOOM参加2000円

### 第1講座 「男性に求められる ジェンダー平等」(仮題)



講師 元橋 利恵さん  
(大阪大学大学院人間科学研究科  
招へい研究員)

### 第2講座 「交通権と健康権」(仮題)

講師 町田 茂さん  
(群馬県社会保障推進協議会 事務局長)  
◇詳細はお申込用紙をご覧ください◇

## 4.26「いのちと暮らしを守る「なんでも相談会」

当日の来場者数  
320人、食料提供  
304食、対面相談66  
件、電話49件、ボ  
ランティア100名超  
えました。



15時ごろから雨が降り、テントから雨漏りして傘を差しながら電話相談されていた弁護士さんもいましたが、片付け時間の途中に止み、最後のまとめと集合写真の時間には青空でした！次回は7月26日(土)です。場所は未定ですが、室内で会場探し中です。

(4.26なんでも相談会実行委員会からの報告)

◆当日の相談内容などの詳細については、来月の「埼玉のくらしと社会保障6月号」に掲載します。